

World Watch Monitor (<https://www.worldwatchmonitor.org/>) により、アジア、アフリカの教会の情報を知ることが出来ます。日本では穏やかに復活祭の礼拝を守りましたが、信仰のゆえに、対立、圧迫、迫害を受けているキリスト者がアジア諸国には非常に多く、緊張を強いられつつ、懸命に信仰を守っていることも知らされます。政治的、宗教的指導者が平和、和解を求めているながら、いまだに信徒が暴力にさらされている国々があります。以下の写真と記事は今年のイースターに発信されたものの一部です。



シリアのアレッポは1年前に停戦となり、キリスト教のコミュニティはイースターを準備する時を過ごしています。司教は「やがて平和がくるでしょうが、どのような結末になるかについては懐疑的だ」と言います。「外国(トルコ)の介入が懸念される。この貧しい国を裸にして、戦利品を分けようとしていると感じる」と言っています。8年に及ぶ紛争で民間の犠牲者も多く、経済産業の都であったアレッポは死と滅亡を経験しましたが、「信仰は死よりも強い。生きている、甦ったキリストがアレッポとシリア全土に平和を与えることを信じ、働いている」と話しています。



カトリックの国と言われるフィリピンでは、ミンダナオの自治的モスリム地域であるマラウイで、ISに影響を受けた過激派により戦闘が勃発し、町、教会が破壊され、40万人の人々が避難を余儀なくさせられました。数ヵ月前に過激派から解放され、再建が始まりました。ここではクリスチャンは少数派です。モスリムの政治家や、指導者たちは、「分裂ではなく団結を」と訴え、イスラム教徒とキリスト教徒の宗教間の理解が生まれるように、努力がなされ始めました。けれども過激派の問題が根本的に解決されてはならず、キリスト教徒は「警戒」を呼びかけられているといます。



インドネシアでは人口の10%の2400万人がキリスト教徒ですが、87%以上がイスラム教徒です。マルク州アンボンにある聖フランシスコ・ザビエル大聖堂で、聖金曜日の行列に、他宗教の指導者たちが共に参加し、イスラム教徒の若い数十人の人々がダンスを演じたと報道されました。アンボンは1999-2002年にかけてキリスト教徒が割礼や改宗を迫られたところで、いまだに過激派が存在するといわれています。けれども宗教間の対立よりも共存が積極的になされているのを見るのは、なんとも素晴らしいものです。キリスト教徒が積極的に外に出て、異なる背景の人々と交流すべきだとインドネシアの教会の指導者は言っています。去年知り合ったシンガポールのシャリーンさんのメソジスト教会は近隣の各国に伝道隊を送っているといっています。アジアの諸教会の現実をもっと知り、イースターの喜びである、共に平和に生きる道、愛し合う方法、奉仕すべき業、「和解」を学びたいと思います。